

令和4年度点検・評価報告書（暫定版）における委員意見への対応について

No.	項目	意見	正式版における対応	担当課
1	全体	基本指標の達成度のパーセンテージについて、どの回答を集計したものか記載するべき。	基本指標の達成度のパーセンテージについて、注釈をつけました。	生涯スポーツ振興課
2		基本指標の達成度のグラフについて、主軸の始まりが統一されておらず見る時の印象が違うため統一すべき。	基本指標の達成度のグラフについて、主軸の始まりを統一しました。	生涯スポーツ振興課
3	A-4 運動部活動満足度 (報告書 P8)	中学生の満足度が 10 ポイント下がっていること (78.6%→68.2%) に対して、総括に「部活動の縮小」や「学校への指導者の未配置」と記載があるが、令和3年度から令和4年度で状況が劇的に変わったとは考えにくいいため、表現を再検討すべき。	以下のとおり修正しました。 「アンケート調査における満足していない理由が、指導方法や内容への不満 (10.5%→18.9%) や練習時間が長い (12.1%→14.7%) が上位となっており、指導内容への満足度が低下していると考えられる。」	保健体育課
4	B 週1回程度のスポーツ実施率 (報告書 P10)	総合型地域スポーツクラブの普及・認知度の増加を図ることによってスポーツ実施率が上がるとは思えないので、書きぶりを検討すべき。	以下のとおり修正しました。 「今後、ライフステージに合わせた運動機会の創出を周知していくとともに、働き世代のスポーツの更なる推進を図るなど、県民のスポーツ活動を支援していく。 また、スポーツの実施環境について、性別や年齢に応じた普及啓発や環境整備を行っていく。」	生涯スポーツ振興課
5		20代の実施率が大幅に減少 (64%→52%) していることは課題であり、フィットネスクラブなど民間のスポーツ産業は上がっているため、その世代への運動機会の仕方について工夫が必要になる。	ライフステージに合わせた運動機会の創出について、引き続き検討を進めてまいります。	生涯スポーツ振興課
6		国民の運動実施率を高めるための報告書では、「環境」というキーワードの考察が入っているため、総括にそのようなワードが入ってくるとよい。	「スポーツの実施環境について、性別や年齢に応じた普及啓発や環境整備を行っていく。」という文言を追加しました。	生涯スポーツ振興課

No.	項目	意見	正式版における対応	担当課
7	B 週1回程度のスポーツ実施率 (報告書 P10)	アンケートでは、通勤方法や徒歩での移動距離などのデータは集計しているか。 通勤によって運動量が確保されている事情もあると思われるので、次回はそのような点も聞いていただきたい。	これまで未集計でしたが、今回のアンケート調査から、スポーツ庁の調査に合わせて、「ウォーキング(散歩・一歩歩き等)、階段昇降(2アップ3ダウン等)を含む」を記載することとしました。	生涯スポーツ 振興課
8	C-2 パラリンピック競技日本代表者数 (報告書 P12)	パラスポーツが強い国は障害者が多いという事情もあり、選手が多ければ良いとは限らないため、数字ではなく中身も同時に見ていただきたい。	パラスポーツ関係団体と連携し、パラスポーツを実施している障害者の方へ支援が行き届くよう、事業を進めてまいります。	競技スポーツ 振興課
9	(報告書 P12)	パラアスリートは個別性が強く、相談できる窓口が少ない状況があるため、スポーツ科学センター等と連携しながら、パラアスリートの相談体制を整備できるといい。	スポーツ科学センターと連携した、競技力向上に関する相談体制の構築を進めてまいります。	競技スポーツ 振興課
10	(D-1)公認スポーツ指導者数 (D-2)障害者スポーツ指導者数 (報告書 P13)	部活動地域移行に深く関連するため、重要性を共有すべき。 部活動地域移行への対応に向けて、指導者の中に教員ではなく、地域の方が何名いるかなどの内訳に注目する必要がある。	各指導者の地域分布等に着目し、関係団体に周知・共有する等、指導者活用を図ってまいります。	生涯スポーツ 振興課
11	D-5 総合型地域スポーツクラブの認知度 (報告書 P15)	わずかに上昇した程度(16%→17.2%)ではなく、県民の過半数が認知しているくらい認知度を高める方策を取っていただきたい。	令和5年度は、新たに普及・啓発用のパンフレット等を作成し、県民が総合型地域スポーツクラブに関する最新の情報を入手できるようにQRコード等を掲載する等の工夫を行い、クラブの認知度向上・新規設立のための支援を図っていく。	生涯スポーツ 振興課
12	E 競技力の向上とクリーンでフェアなスポーツの推進 (報告書 P16)	リンク名にも入っている「スポーツ・インテグリティ」について、総括に記載がないため、記載していただきたい。	リンク名が誤っていたため、訂正しました。 誤：競技力の向上とスポーツ・インテグリティの確保 正：競技力の向上とクリーンでフェアなスポーツの推進 なお、クリーンでフェアなスポーツの推進について、総括で触れました。	生涯スポーツ 振興課

No.	項目	意見	正式版における対応	担当課
13	F-1 トップ・プロチームとの連携事業を実施した市町村の割合 (報告書 P17)	基本指標の達成度を「事業を実施した市町村の割合」にしてしまうと、子供たちの参加が増えても指標の数値が増えるわけではないため、指標が分かりにくい。	指標の変更は困難なため、総括に以下のとおり推移を記述しました。 「指標であるトップ・プロチームとの連携事業を実施した市町村の割合は、令和3年度から横ばいであったが、「ちば夢チャレンジ☆パスポート・プロジェクト」の参加人数は令和3年度が22,074名、令和4年度が66,400名で、「ちば夢チャレンジかなえ隊」の参加人数は令和3年度が600名、令和4年度が986名で、どちらも増加している。 次年度は、「ちば夢チャレンジ☆パスポート・プロジェクト」の参加対象を小学生から小・中・高校生へ拡充し、「ちば夢チャレンジかなえ隊」派遣事業の派遣校数を10校から20校に拡充する予定である。 トップアスリートと直に触れ合える貴重な機会であるため事業への参加希望が多く、ニーズの高さが伺えるため、今後も実施地域を広げてスポーツの普及振興に繋げていく。」	生涯スポーツ 振興課
14	F-2 スポーツ情報への関心度 (報告書 P18)	ホームページだけを検索して情報が入ってくるケースは殆どないため、SNSを活用して、関心を持って入ってきてもらうことが重要である。	SNSを活用したスポーツ情報の効果的な発信について今後も検討してまいります。	生涯スポーツ 振興課